

週刊新潮8/31号8月23日発行の『プロフェッショナルドクター による難症例の眼科手術第5回』に  
当院の院長浅見 哲先生 が取り上げられました。 8/31号 (2023年8月23日発売)

昭和31年2月20日第3種郵便物認可 令和5年8月31日発行(本誌日発行)(8月23日発売)第68巻第32号

# 週刊新潮

8月31日秋初月増大号

特別  
定価 480円

読者アンケート  
実施中!



特集

「国会議員」夏の「外遊バカンス」に便宜供与

32



# プロフェッショナルドクターによる難症例の眼科手術



院長  
**浅見 哲**  
Tetsu Asami

名古屋大学医学部附属病院の医局長や県内有数の眼科専門病院の副院長などを歴任し、無数の手術を手がけてきた浅見院長。昨年1年間で約1300件もの手術を自ら執刀しているが、緑内障や網膜剥離など難易度もリスクも高い患者を受け容れる姿勢に、地域の医療機関から大きな信頼が集まっている。

## 症例 05

愛知県岡崎市在住  
Y・Kさん(70代・女性)



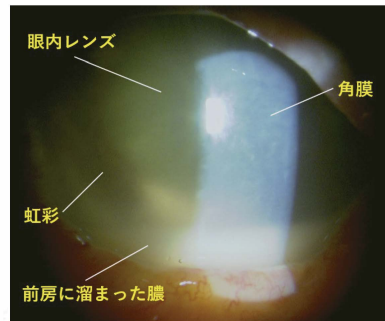
患者は76歳の女性。今年4月に白内障手術を受けた。術後2日までは特に問題はなかったが、3日目に急変。視界が強く霞むためクリニックを受診すると、眼内に炎症が認められた。眼科医は一刻を争う事態と判断し、その場で浅見眼科手術クリニックに連絡。患者はその足で来院し、浅見院長の診察を受けた。

愛知県・名古屋・大府 JR「共和」駅徒歩1分  
2021年の夏に開院した専門クリニックに聞く、今回は、白内障手術後の目のトラブルをテーマに、年間約1300件もの眼科手術を執刀する浅見哲院長にお話をうかがった。

## 浅見眼科手術クリニック

### 白内障手術を受けた後 突如として乱れた視界

目の中でレンズの役割を担う水晶体が白く濁る白内障。タンパク質が活性酸素で濁るのは主に加齢によるもので、薬で取り除くことはできない。最終的に治療は手術一択となるのだが、術式自体はさほど難しくないため、私たちの生活でも最も身近な手術のひとつに数えられている。だが、こんなことも起こり得る。今回ご紹介する症例は、白内障手術の3日後に突然、視界が大きく霞むようになった女性のお話。すぐ



白内障手術後の眼内炎の前眼部写真。細菌感染により生じた白い膿が前房に溜まっている。

浅見眼科手術クリニック  
<https://asamiganka.com/>



スマートフォンをご利用の方はこちらよりアクセス

診療時間・休日についてはHPでご確認ください  
所在地 ◆ 愛知県大府市市東新町2-165  
電話 ◆ 0562-46-7700

は一週間ほどでほぼ治まり、約1か月後には再び眼内レンズを入れて、ようやく正常な視界の日常に戻ることができた。経緯を聞くと白内障手術に問題があったかのように聞こえるが、浅見院長によれば「まったく逆」で、むしろ再来院時の早期発見・早期対応ぶりを誇る。「目の表面にはさまざまな常在菌がいて、白内障に限らず眼科手術後には稀に炎症を起こします。手術は事前の消毒で無菌に近い状態で行いますが、睫毛の根元など菌はあちこちに潜り込むことがあるのです」(浅見院長)

にクリニックに駆け込んで検査を受けたところ炎症があり、術後の眼内炎が疑われた。直ちに浅見眼科手術クリニックを紹介され、患者はその足で来院。浅見院長自身が確定診断を下し、すぐさま緊急手術となった。原因は、術後の傷に細菌が入り込んだこと。虹彩と角膜の間の前房などに溜まった膿を洗い流し、眼内レンズを取り出し硝子体手術を実施。無色透明な硝子体が白く濁り、網膜も混濁し始めていて、一部の毛細血管が潰れて出血もあったためすべて処置すると同時に、この時点で治療を開始。点滴を実施し、術中の眼圧維持のための保護液にも抗生剤を溶かすなどの措置を行いながら、50分ほどの手術を終えた。

### 完璧な手術を行っても一定の確率で起こるトラブル

その後は毎日通院し、原因菌として考えられる菌をカバーする形で組み合わせた抗生剤を点滴と眼内への注射で投与。炎症

完璧な手術を行っても、一定の確率で起こるトラブル。対処法は、患者本人の術後のケアしかない。処方された点眼薬は必ず使い、可能な限り清潔を保ち、通院を欠かさざること。「今回のケースのように、手術後に問題が生じるとしたら3〜4日後が多い傾向が見られますので、余裕を見て一週間くらいは特に注

意が必要でしょう。中でも、視界が霞んだり、充血や痛みが出た場合は要注意です。この患者様のように、今回の通院予定まで待つことなく、すぐ受診を」と浅見院長は訴える。

日本国内では年間に150万件前後とも言われる白内障手術は、最も多く行われている外科手術でもある。比較的容易な手術であることは間違いなが、

だからと言ってリスクがゼロというわけではないので、軽く考えるのはNG。過度に緊張する必要はないが、それでも「外科手術を受ける」ことをしっかりと自覚して臨みたいものだ。



「院名の意味」「手術」の2文字を院名に入れるのは、院長が半生をかけて積み上げた経験と技術をひとりでも多くの患者に届けたいという浅見院長の想いの表れ。